

八尾・よろず考古通信

八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌 年2回発行



平成 27 年度の主な発掘成果から

平成 27 年度に市域で実施した埋蔵文化財発掘調査では多くの成果がありました。

市域北東部の水越遺跡では、弥生時代前期(前3C)～中世(15C)の遺構および遺物包含層が見つかり、また、
蘭光寺跡では、平安時代末期～鎌倉時代初期の梵字文軒丸瓦が見つかりました。東部に存在する古墳時代後期(6C)の前方後円墳の郡川西塚古墳では、葺石と周濠を確認し、古墳の構築方法を考える上で貴重な成果を得ました。
南部の東弓削遺跡では、弥生時代中期中葉(前1C)～鎌倉時代(13C)の居住域や墓域を確認しました。



平成 27 年度の主な発掘調査地点

弥生時代後期の方形周溝墓を発見！

水越遺跡<第20次調査>(千塚二丁目)

水越遺跡は八尾市の北東部に位置する縄文時代中期(前30C)～室町時代(16C)の複合遺跡です。当遺跡は、八尾市山畑付近を中心に、東西約1.25km、南北約1.2kmがその範囲と推定されており、地形的には生駒山地西麓部から派生した緩扇状地上(標高12～55m)に立地しています。

今回の調査は、高安中学校区における施設一体型小・中学校整備に伴う発掘調査で、調査面積は約317㎡です。調査の結果、弥生時代前期～中世の遺構および遺物包含層を確認しました。弥生時代後期では、調査地の西部で方形周溝墓3基(方形周溝墓301～303)が確認され、同時期は墓域であったことが判りました。これらの方形周溝墓群は、弥生時代前期～中期の遺構群を削平して造営されていることが明らかになりました。3基の方形周溝墓は、埋葬主体部などが未検出であるため詳細は不明ですが、周溝内からほぼ完形に復元できた手焙形土器が1点出土しており、この遺物が盛土上面に供献されたものであるならば、時期は弥生時代後期中頃(1C末～2C初頭)の可能性がります。古墳時代中期(5C後半～末)では、土坑<SK111・201>から土師器・須恵器・製塩土器とともに、石製品(滑石製紡錘車・砥石など)や馬の歯など



方形周溝墓 301～303 検出状況 (弥生時代後期)



土坑 (SK111) 出土の馬歯 (古墳時代中期)



土坑 (SK201) 検出状況 (古墳時代中期)

目次 ◆平成 27 年度の主な発掘成果から(p1～3) ◆考古学よろずコラム第 15 回 東弓削遺跡から見つかった奈良時代の古墳(p4) ◆イベント案内/編集後記(p4)

が出土しており、何らかの祭祀に関連する遺構群の可能性が考えられます。当該期の本調査地一帯の性格を推測する上で特筆すべき成果と言えます。

平安時代末期～鎌倉時代初期の軒丸瓦を発見！

おんこうじあと
蘭光寺跡<第2次調査>(神立五丁目)

蘭光寺跡は、八尾市の北東部に位置し、玉祖神社の神宮寺と考えられている寺跡です。地理的には、生駒山地西麓の標高83～124m付近の斜面上に立地しています。

今回の調査では、寺院建物や寺院付随施設など蘭光寺に直接つながる遺構を確認することはできませんでした。しかし、後世の整地層から平安時代末期～鎌倉時代初期の阿弥陀如来を表す「キリク」の梵字を配する梵字文軒丸瓦が見つかりました。当寺は平安時代前期の創建と伝えられますが、これらの資料は今後、蘭光寺を研究する上で重要な手掛かりとなるものと思われます。今回出土した梵字文軒丸瓦は、穴太神社(宮町一丁目所在)の神宮寺であった穴太廃寺(千眼寺跡)出土の梵字文軒丸瓦と同範瓦である可能性が極めて高く、当該期における寺院相互の関係や瓦の供給関係を知る上でも貴重な資料となるものです。



梵字文軒丸瓦
(平安時代末期～鎌倉時代初期)

弥生・古墳・奈良・鎌倉・室町の各時代の様々な生活の跡が見つかる

ひがしゆげいせき
東弓削遺跡<第24次調査>(都塚四丁目、大字刑部、都塚、東弓削)

東弓削遺跡は八尾市の南部に位置する弥生時代中期(前2C)～中世(16C)にかけての複合遺跡で、地理的には、旧大和川の主流であった長瀬川と玉串川に挟まれた沖積地に立地しています。

今回の調査は、曙川南土地地区画整理事業に伴うもので、遺跡範囲の東部で実施しました。調査の結果、弥生時代中期～室町時代前期の居住域・墓域・生産域に関連した遺構・遺物が見つかりました。

弥生時代中期中葉(前1C)の土坑<SK64>からは、遺存状態の良い壺が出土しました。西に近接する昭和50～51(1975～1976)年の市教委調査地などでは、弥生時代中期前半～後半の土器が見つかっており、付近一帯は当該期の居住域となっていたようです。古墳時代前期前半(3C後半～3C末頃)の溝<SD10>からは、在地産の土器とともに他地域の土器が多数出土しました。なかでも山陰系土器が多く、吉備系、東部四国(讃岐・阿波)系の土器も見られ邪馬台国時代の地域間交流を示す貴重な資料として注目されます。古墳時代中期(5C)の地層からは家形埴輪の屋根の部分が見つ



土坑<SK64>遺物出土状況
(弥生時代中期)



家形埴輪出土状況
(古墳時代中期)



蔵骨器出土状況
(奈良時代後期)

かりました。屋根は切妻造りで、屋根の表面には粘土の帯を貼り、網代の模様を施しています。この埴輪の発見により、古墳時代中期の古墳が近隣に存在していた可能性が高くなりました。奈良時代(8C)では、蔵骨器や軒平瓦を発見しました。蔵骨器は、須恵器の蓋付の壺が使用されていました。この蔵骨器の発見により本地が当該期に墓域として利用されていることが判明しました。また、軒平瓦は、鎌倉時代の土坑〈SK1〉から中世の土器と伴に出土しました。見つかった瓦は奈良時代のものであることから、近隣に寺院が存在していた可能性が高くなりました。

郡川西塚古墳（前方後円墳）の葺石と周濠を確認！

こおりがわにしづかこふん

郡川西塚古墳〈第1次調査〉(郡川一丁目 61)

〈第2次調査〉(郡川一丁目 55番地・63番地)

郡川西塚古墳は、本市の東部の郡川一丁目に立地する古墳時代後期(6C)の前方後円墳です。地形的には、生駒山地西麓部から派生した緩扇状地の末端部(標高 13~16m)に位置しています。

本古墳は北面する前方後円墳で、現状では、その原形は著しく破壊されていますが、全長約 60m、後円部径約 30m、高さ 2.5mの規模を有することが推測されています。明治 35(1902)年に行われた開墾時の所見では、後円部において南に開口する右片袖式の横穴式石室が存在したことが確認されたほか、石室内には、朱詰めの木棺が安置されていたのをはじめ、銅鏡、甲冑、刀剣、垂飾付銀製耳環、金環、銀環、玉類、須恵器などの豊富な副葬品が出土し、後期中河内地域での前方後円墳を考える上で、多くの情報をもたらしたことで知られています。

第1次調査は後円部の南側、第2次調査は前方部の北西側(1区)と東側(2区)で実施しました。調査の結果、第1次調査では、後円部南側斜面下段に形成された葺石とその南側に存在する周濠を確認し、周濠内からは円筒埴輪が見つかりました。円筒埴輪は、いずれも川西編年のV期(6C前半)に帰属します。第2次調査の1区では、前方部周濠内の埋土を確認しました。また2区では、前方部東斜面に形成された葺石を確認することができ、葺石は、墳丘盛土の構築と連動しながら形成されている可能性が高いことがわかりました。第1・2次調査ともに古墳の葺石が良好に残っていることが確認でき、当該期の古墳の構築方法を考える上で貴重な成果を得ました。



〈第1次調査〉後円部下段斜面葺石検出状況



〈第1次調査〉周濠内埴輪出土状況



〈第2次調査〉2区葺石検出状況

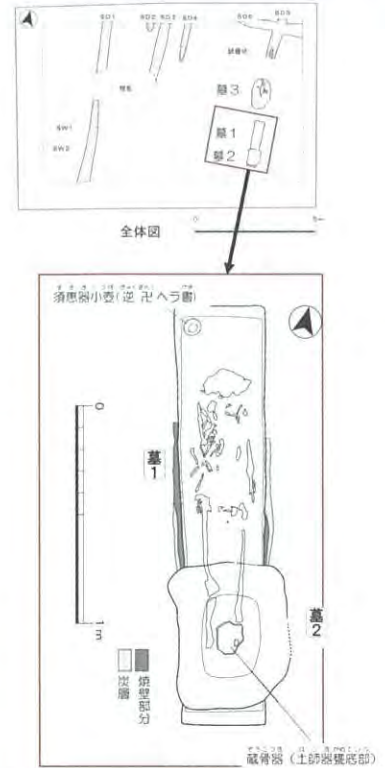
東弓削遺跡から見つかった奈良時代の古墓

奈良時代の墓制には、土葬墓のほか火葬した骨を蔵骨器(土師器・須恵器・金属器)に入れ埋葬した火葬墓も見られます。

東弓削遺跡の北西部の第18次調査では、奈良時代の墳墓3基(墓1～3)が平野部で初めて見つかりました。内訳は火葬墓2基(墓1・2)と土器棺を用いた土葬墓1基(墓3)です。墓1・2が奈良時代前期、墓3が奈良時代後期と考えられます。なかでも、火葬墓(墓1)には逆卍の文様をへら書した須恵器の小壺が副葬されており、現時点では府下最古の事例となります。また、土器棺を用いた土葬墓(墓3)は、土師器羽釜2点を横にして口を合わせた合わせ口の構造で、主軸は南北方向です。

また、東弓削遺跡の南東部の第24次調査からも、奈良時代後期の蔵骨器(本誌2頁写真)が見つかりました。

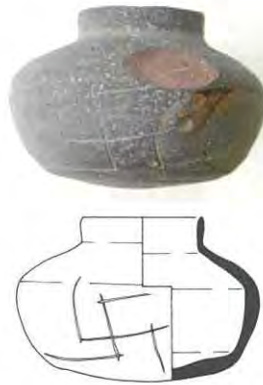
これらの資料は、調査地近辺に存在したと推定される由義寺跡(弓削寺跡)との関わりのほか、河内地域における奈良時代の葬法を考えるうえで貴重な資料と言えます。



墓1・墓2 平面図
〈東弓削遺跡第18次〉



土器棺を用いた土葬墓(墓3) 検出状況



墓1から出土した
逆卍が書かれた須恵器小壺



火葬墓(墓1) 検出状況

編集後記

平成27年度から実施している曙川南土地区画整理事業に伴う東弓削遺跡の調査で、奈良時代後期の瓦が数多く出土した。

中には興福寺式系と東大寺式系の軒丸瓦と軒平瓦があることが判り、ともに平城京の京城から運ばれたと推定される。

瓦の出土量は、これまでに、コンテナ箱にして数百箱に上っている。これだけ大量の瓦が出土するということは、近隣に由義寺跡(弓削寺跡)が実在していた可能性が高くなった。

寺域が未確認であった道鏡の寺とされる由義寺が、これらの調査の進展により、その寺域の特定が可能となるところまできているのは間違いなさそうである。

〈KN〉



イベント情報

◆平成28年度秋季企画展

「やおの古代—古代集落の成立とくらし—」

期間:平成28年9月28日(水)~平成29年2月17日(金)

時間:午前9時~午後5時、入館無料

休館日:土、日、祝日、年末年始(12月29日~1月3日)

◆講演会

「八尾市内の飛鳥~奈良時代の集落について」

講師:西村公助<当施設学芸担当>

日時:平成29年1月22日(日)午後1時30分~(先着30名)

場所:八尾市立埋蔵文化財調査センター



八尾市立埋蔵文化財調査センター情報誌

『八尾・よろず考古通信 15号』

発行:2016年10月31日 八尾市立埋蔵文化財調査センター

(編集:公益財団法人八尾市文化財調査研究会)

〒581-0821 大阪府八尾市幸町四丁目58-2

TEL・FAX 072-994-4700

E-mail: maibun_zyao@kawachi.zaq.ne.jp

